



志紀おおぞらこども園

第6号

発行者：岡内郷子

2025, 6, 11



多文化共生プログラム

6月3日、5歳児が“多文化共生プログラム”でガーナの国出身のテイカスさんから、世界の国の話を聞きました。明るくてチャーミングなテイカスさんが話される英語を聞きながら、ダンスをしたりゲームをしたりして楽しく対話していました。本園にも色々な国の子どもたちがいます。互いを知り、相手を思いやれるやさしい心が育つ機会になってくれたら嬉しいです。



ガーナの国ではあざやかな色の民族衣装をきます。と教えてもらった後、実際に触らせてもらう場面もありました。



民族楽器の“ジャンベ”(太鼓のような楽器)にも触らせてもらいました!!
あの有名な『チエツ、チエツコリ』の曲もガーナの国の曲だと知り、びっくりしました



「この国旗はどこの国?」と国旗を見て、国名を当てそのあと世界地図のどの位置にあるかを当てるゲームをしました。



「かみつき」・「ひっかき」ってどうなの??

実は……私たち保育者は『かみつき』や『ひっかき』という事案がおこったと聞くだけで、体のどこかがチクリと痛んだり、ずーんと心が重くなる感覚になったりしています。一生懸命保育していても、ほんのちよつとの瞬間に『かみつき』や『ひっかき』って起こってしまいます。もちろん、噛まれた子どもが一番痛くて、つらいことは間違いないですが、傷口を手当てしながらも防げなかったことへの自己嫌悪に陥ってしまいます。では、どうして『かみつき』や『ひっかき』はおこるのでしょうか? ! それには、子どもたちの発達上の特性があるようです。

0歳～1歳頃は、なんでも口に入れ“しゃぶる”ということで、いろいろな物事を認知する時期です。同時に歯の生え始めの不快感もあるので、その不快感を解消するために、たまたま隣にいた友だちをかんでしまうことがあります。しかし、この時期は、まだ動きがゆっくりなので、未然に防げることもあります。

1～2歳になると、自我の芽生えから「自分でやりたい」「〇〇が欲しい」といった自分の思いを『かみつき』という手段で表現することが出てきます。かみついた理由や状況は一人ひとり違うので、かんでしまった子どもにも“かまずにいられたかった気持ち”に共感し、どのように気持ちを伝えたらよかったのかを一緒に考え“こうやったらよかったね”と伝えるようにしています。一方かまれてしまった子どもには、かまれた痛みやショックに寄り添いながら痛みと共に、かみついた子どもの思いも伝え、双方の気持ちを代弁するようにしています。

2歳～3歳以上の頃は、突発的というよりは、普段我慢していた思いが爆発して「もう我慢できない」とかむことや普段手を出されている子どもが「今日はやられたくない」と自己防衛としてまだ何も起きていないのに“かむ”ということがあります。

日々『かみつき』や『ひっかき』がおこらないように、担任間で連携したり、トラブルが起こりやすいような場所や玩具等の数などに気をつけたり、保育者の体制を整えたりしながら、安心安全な保育環境づくりを心がけていますが、まだまだ、完全に防げていない状況が心苦しい限りです。しかしながら、乳幼児期のこの体験が、今後の生きていく上で他者の気持ちや痛みに気づくことにつながると信じ、丁寧にかけわり続けていきます。

今後も保護者の皆様には、大変ご不安をかけてしまうこともあると思いますが、保護者の皆様と一緒に、子どもたちの健やかな成長を支えて参りたいと思っております。ご理解いただければ嬉しいです。そして、何かありましたら、いつでも気軽に声をかけてください。